



第13回 海ごみの調査 開催報告

開催日 2025年6月21日（土）

1. 「私たちの生活と身近な海岸状況」のお話

◎講師：Hamamatsu-浜松の海を守る会 清水浩利氏

- ・遠州灘の位置と様子
- ・遠州灘海岸の問題 ①ごみ ②海岸浸食 ③松枯れ
- ・沿岸部のごみ ①漂着ごみ ②不法投棄（ポイ捨てごみ）
- ・漂着ごみの問題・種類・野生生物への影響・増えた原因？
- ・自分が出来る行動を考える



2. 海ごみの調査

- ・6月8日回収@浜松市篠原海岸・馬込川右岸河口付近
- 漂着ごみ：**5.75kg**（ごみ袋2袋）
- ・漂着ごみの分別作業と「ごみ調査・データカード」の調査対象45品目の個数を数えた。（破片は、直径2.5cm以上のものが対象）

回収量 合計517個

1位	発砲スチロール破片	146個
2位	硬質プラスチック破片	101個
3位	プラスチックシートや袋の破片	81個
4位	タバコの吸殻・フィルター	48個
5位	生活雑貨（歯ブラシ・文具等）	19個
	※マスク 12個	

3. 参加者の声

- ・禁煙や電子タバコが普及していると思っていたが、4位にタバコの吸殻・フィルターが入ったことに驚いた。
- ・カプセルトイの容器は、販売場所で回収しているが、何故かカプセルが海ごみに入っていた。私たちの生活から出たプラスチック製品が川から海に流れていることが分かった。
- ・注射器や電球があった。どうしたら海ごみになるのか不思議である。
- ・マスクが12個もあった。道に落ちてるマスクを見かけることがあるが、そのマスクが海ごみになることが分かった。落ちてるマスクを拾うことに抵抗がある。自分の健康管理と同じように地球の健康のために使い終わったマスクは、しっかり処理したい。

